

時局に思う



日本遺族会顧問
参議院議員

水落敏栄

2023年3月21日、日本遺族会「青年部」の組織化に向けた初の研修会が開催されました。

戦後七十年、国民の八割が戦争を知らない世代が占め、戦没者の孫、ひ孫の世代になれば、「戦没者遺族」ということを意識するしないのが現実かもしれません。従って青年部の組織化は容易ではなく、全国の遺族会で温度差があるのは否めません。なぜ、今更にお考えの方もおられるでしょう。

あの戦争で国土は焼け野原となり、飢え、貧困、何重もの苦しみを国民皆が受け、平和と繁栄を一丸となつて求め、必死に働いた結果、我が国は平和国家として歩み、目覚ましい発展を遂げました。この背景には当時は遺族のみならず、国民皆に苦い戦争の記憶があり、国の礎に多くの尊い犠牲があったことを胸に留めていた要因があります。

この尊い組織を次の世代へ

あれから七十年、戦争は風化され、世界各地で悲劇は繰り返されています。だからこそ私たち遺族会が戦争の悲惨さ平和の尊さを後世に語り継ぐことは社会的使命であり、恒久平和を希求する活動を続ける為に、後継者育成は急務であります。そして遺族会の中核を担う私たち遺児の最大の使命は、この尊い組織を次の世代へつなげることであります。

戦後、一家の大黒柱を失い、一切の処遇を打ち切られた戦没者遺族は、家族を養う為、昼夜なく馬車馬のように働き、寝る間を惜しみ英霊の名誉回復の為の活動を展開し、遺族会は結成されました。

そうした母の姿を目の当たりにした私たち遺児は、さみしさも口にできず、早く自立し家族を楽にしたいと必死に働き続けました。伴侶を得て、家庭を持つと、自分

のような辛い経験はさせまいと更に働きましたが、反面自らの辛い体験を家族に話された方は少ないように思います。それほど戦争体験というのは、悲惨で救いようのない触れたくない過去でありました。

青年部結成は容易ではありませんが、家庭で出来る第一歩として、私たちが自らの子や孫に、辛く苦しい経験を語り、平和を考えても

らうことが大切だと思います。そして、次に慰霊巡拝や遺骨収集、各地の慰霊祭へ参加していただき、体験していただくことが重要だと思います。

多くの困難が予想されますが、ご遺族の代表として国政にお送りいただいたものとして、青年部の組織結成に向け努力して参ります。平和の灯を守り続けるため、今一度皆様のお力をお貸しくださいますようお願い申し上げます。



「青年部」組織化に向けての研修会で挨拶する水落敏栄顧問（参議院議員）＝3月21日、アルカディア市ヶ谷で